

令和3年度豊田市駅東口まちなか広場  
拠点施設運営・管理事業評価会議  
評価結果報告 令和4年3月

とよしば

Toyota Creative Base Area



## 概要

日時 令和4年2月10日（木）  
午後1時から午後4時まで  
場所 豊田市中心図書館6階多目的ホール及びオンライン

## 評価委員



委員名	所属・役職
河木 照雄	(一社)TCCM タウンマネージャー
名畑 恵	錦二丁目エリアマネジメント（株）代表取締役
飯石 藍	公共R不動産コーディネーター
鈴木 美央	東京理科大学 講師
西脇 委千弘	豊田市 産業部長（豊田市 産業部 商業観光課長 成瀬 剛史 代理出席）
阿久津 正典	豊田市 都市整備部長

## 評価項目

### 1. 運営・管理状況評価

売上（収益性）、来場者数、広場使用回数、企画実施回数、  
スクール事業内容、露出度

### 2. アウトカム評価

滞留行動

### 3. 施設ミッションの達成度評価

- ・ 世代、国籍を超えた多様な人々の集いと交流の場となること
- ・ 豊田ならではの「おもてなし」を体現する憩いの場となること
- ・ 市民の「やりたい」が生まれる自己実現の場となること
- ・ 街への愛着や新たな活動の担い手が育まれる場になること

### 評価結果

◎今年度の運営事業者である『有限会社ゾープランニング』が  
次年度も引き続き事業継続していくことを決定

### 評価得点

評価項目に基づいて数値による採点を行った結果、810点満点中、619点の得点となり、**目標を達成している**と評価した。

評価基準	
729点以上	大変優れている
648点以上	優れている
<b>567点以上</b>	<b>目標を達成している</b>
486点以上	目標達成に近づいている
405点以上	目標達成の可能性が低い

コロナ禍でのイベント実施  
(区域制限を企画の雰囲気に合わせて装飾で演出)



コロナ禍でのイベント実施  
(屋外で密にならず、読書ができる場を演出)



コロナ禍でのイベント実施  
(屋外での多様なアクティビティ (モルック大会) を演出)



## 総評（評価できる事項）

コロナ禍においても、多様な取り組みを展開しており、滞留に貢献していることは、大いに評価できる。

## ● 滞留の創出

- ・ 運営面の様々な要素で工夫や改善を重ね、若者を中心としたまちの人にとっての居場所、拠り所になっている。
- ・ コロナ禍において、人とのコミュニケーションが希薄化する中、屋外空間であるとよしばでの時間が、中高生の居場所として大きな意味を持った。
- ・ 利用者に寄り添い、単なる利用だけでなく、より当事者性を持ったコミュニティが育まれている。

## ● 実践的かつ多様な人材育成

- ・ 人材育成スクールプログラムにおいて事業者が参加者にしっかりと伴走しながら、とよしばを実践の場として活用する、ユニークかつ実践的なスクールである。
- ・ スクールプログラム以外に企画者のフォローを丁寧に行うことで、人と人の繋がりを作っていくことを後押ししている。運営事業者のパーソナリティーや豊田での繋がりがあるからこそできている。

若年層の滞留寄与を目的とした  
カフェメニューの新設



来場者とのコミュニケーション  
機会の創出



### 総評（改善を要する事項）

- 収益事業の在り方
  - ・ コロナ禍でもインスタ映えするドリンク等の対応策など工夫が見られたが、**もう一歩先の実施策があると良かった。**
  - ・ コロナによって、収益が思うように確保できず財務的な無理があるようならば仕組みの改善も必要である。
- 実施体制の強化
  - ・ 人材育成プログラムにおいて、企画を実施したい人を後押しする機能があるのは評価できるが、**対応者が限定している体制について課題を感じた。**テーマに分けて、事業者側の様々な人がサポートできる仕組みがつけると良い。
- 周辺との連携
 

様々な関係者をつながりを築き、周辺の波及効果を出しながら**共催的な事業展開につながることを期待する。**

コロナ禍で屋外の舗装エリアを活用



マルシェ開始前出店者等関係者に呼びかけを行って、とよしば周辺のゴミ拾いを実施

